

新しいごみ処理業務委託候補者を決定 実現に向けた3条件が整う

よい環境を次世代へつなごう



3つの条件整う

最も大きな条件である「処理方式」「運営方法」「委託候補者」を決定し、いよいよ次のステージに進むこととなります。

【3つの条件】

1. 処理方式

トンネルコンポスト方式

2. 運営方法

民設民営方式

3. 委託候補者

観音寺市大野原町福田原241番地1
株式会社エコマスター
代表取締役 海田周治
代表取締役 三野輝男

提案の概要

委託候補者審査委員会には、市議会からごみ処理問題調査特別委員会の正副委員長も立会人として出席しました。提案の概要は7ページをご覧ください。

よい環境のふるさとを次世代へ

トンネルコンポスト方式による処理になっても、これまで同様、ごみの18分別をしていたただけで、皆さんには新たなご負担はありません。

三豊市は「ごみはすべて資源である」という考え方の下、検討を進め、ようやく、微生物処理という自然

去る2月9日、市議会ごみ処理問題調査

特別委員会に、三豊市次期ごみ処理業務委託候補者を提案し承認を受け、市では業務の委託候補者を決定しました。委託候補者とその提案の概要をお知らせいたします。

の力を利用した、しかも化石燃料を使用しない処理方法にたどり着きました。しかし、この考え方を具現化し、維持することは、市民の皆さん一人ひとりの日常における小さな取り組みによって支えられています。21世紀は「環境の世紀」と言われています。私たち

の最も大きな使命の一つは、全市民の参加により「次の世代に良好な環境のふるさと三豊を引き継ぐ」ことではないでしょうか。

地域づくりのパートナー

今後は、(株)エコマスターとの間で、お互いの立場を明確にし、その上で責任をどのように負担するかなどに関する協定を締結し、施設整備の段階に入り

ます。市としては、民間企業でできることは民間企業にやっていただくということとは基本的事項としつつも市内の家庭から出された燃やせるごみを処理するということから、今後とも、この事業には責任ある立場で適切に対処します。

また、トンネルコンポスト方式は、煙も出さず、化石燃料を使用せず、処理水の放出もせず、臭気も抑制した処理です。従来からの認識としてある迷惑施設が持つ要素は徹底して改善しています。この施設を「新エネルギーセンター」として捉えており、三豊市に立地する多くの企業と同様、地域づくりのパートナーとして頑張ってほしいと考えています。

提案の概要

(株)エコマスター

提案事項を実施する(株)エコマスターは、エビス紙料株式会社(観音寺市)と株式会社パブリック(観音寺市)が共同出資で設立した会社です。(なお事業開始時までは市内に本社を移転します)エビス紙料株式会社は、固形燃料の製造、販売を行っている会社で、

月産約3千トンの生産・販売実績を持っています。株式会社パブリックは、廃棄物処理を広く実施しており、固形燃料も月産約1千トン製造・販売しています。

市内の家庭から出された燃やせるごみは、市が収集・運搬を行い、(株)エコマスターが運営するトンネルコンポスト施設に持ち込みます。この施設で、市内の家庭から出された燃やせる

るごみを発酵・乾燥処理し、固形燃料原料としてエビス紙料(株)と(株)パブリックに搬出し、両社は固形燃料を製造し販売する仕組みです。

処理水の対策

トンネルコンポスト施設での発酵には水分が必要で、家庭ごみに含まれている水では足りないために、不足する水は補給しなければなりません。施設内の洗浄などに使用した水も貯水槽へ貯留し、補給水として使用するなど、水循環システムにより、施設外部への処理水の放流はありません(ただし、敷地内に降った雨水は別です)

臭気対策

処理施設は建物の中に整備します。施設建物は、外

気圧より気圧を若干低くして施設内の空気が外に漏れないようにします。これを負圧化と呼んでいます。

建物の中は、それぞれの処理工程ごとに臭気ダクトを張り巡らせ、局部的に臭気を吸い取ります。負圧化により臭気ダクトから集められた空気は、全てバイオフィルターと呼ばれる脱臭装置に集められ、木質チップに吸着させ微生物による脱臭処理を行います。

バイオフィルターは、4基設置され、そのうち3基の能力で施設全体の脱臭が行えるシステムで、木質チップ等の交換時においても脱臭能力が損なわれないようにします。

実証実験

(株)エコマスターでは、平成23年1月から15回の実証実験を行い、その結果は、適切な発酵が行われ、処理水および悪臭の拡散もなく、一定期間の実証実験については、専門機関である香川大学と社団法人地域資源セ

ンターで検証され、三豊市に結果が報告されています。

処理費

三豊市の負担となる処理費は、ごみ1トン当たり2万2千円(平成24年1月時の建物・設備見直しおよび経済状況に基づいて算出。土地代含まず。経済情勢等によって変動する場合有り。消費税別)と提案されています。ちなみに平成22年度の決算によると、燃やせるごみと燃やせないごみの総量は約8千725トンで、三観広域へ支払った処理費負担金は、約3億1千万円強でした。ごみ1トン当たり3万6千円程度の処理費となります。

施設建設費

(株)エコマスターが投資する施設建設費は、全体で約14億円と提案されています。このうち、三豊市のごみに相当する事業費は、約8億5千万円です。民設民営方式ですから、新たな施設建設費の三豊市負担は

ありません。ただし、この施設では、市内の家庭から出される燃やせるごみ約7千8百トンが処理されますから、交通対策など市として検討すべき事項もありません。これらの事項は、今後、市議会と協議を行い、方向づけを行うこととなります。

リスク回避

これまで行政が行ってきた業務を民間企業が行うこととなりますので、それに対する備えも万全に行う必要があります。民間企業であるだけに経営の危機に対する備え、法令等に対する規範意識の向上と維持、法令等の改廃に対する準備と対応、状況変化への順応、自然災害などに対する備えなど、予測と対応への備えについて、三豊市としても指導的立場から対応することとなります。

▼問い合わせ

バイオマスター推進課
73・3028